

申4号 2016年度

## 年末手当 第1回交渉 (趣旨説明) を行う!

### 組合

- ・今年度の中間決算が示された。増収減益であったものの定期収入は堅調、北海道新幹線の開業効果など、第2四半期決算としては過去最高の営業収益・運輸収入。営業収入は1兆円を超え、安定的な経営で推移している。
- ・北陸新幹線、上野東京ラインの開業効果を持続させ、需要を喚起する好材料を確実に業績に結びつけてきたのは、紛れもなく現場第一線で働く組合員。
- ・36でも議論したとおり、増え続ける超勤にへえ、頑張っている組合員の苦勞にへえるべき。
- ・安全上問題のある運転士の車掌運用について、会社は「議論は尽くしたとして」一方実施し、営業列車を用いたクイックラダーの訓練についても「最低限の安全は確保されている」として問題がないと回答するなど、『安全』に対する意識が全く異なっている。労使の認識を一致させなければ組合員の安全に関する規範意識は壊されてしまう。
- ・駅業務の委託などにより人件費と業務委託費の合計は着実に減少している。しかし、安全やサービスが低下することのないよう、組合員が必死に努力し、経費削減や増収のために汗を流してきた。
- ・組合員の努力・頑張りをしっかり受け止め、満額回答を強く要求する!

### 会社

- ・売り上げは対前年度同水準であったが、営業利益は144億円の大減。
- ・社員の奮闘・努力には感謝する。一方で新幹線の修繕引当金や安全対策にかかる修繕費により営業費用が増加している。
- ・経済動向をみても、10月の月例報告では景気判断は7ヶ月連続据え置きされていたり、世界経済としてもアジアの下押し、英国のEU脱退など景気を下押しするリスクがある。
- ・期末手当は大局的な経営の観点から、コスト構造の変化や人事賃金制度、また3年連続で実施してきた賃金改善などが人件費に与える影響や、高い公共性を持つ鉄道事業を営む企業として世間に突出感を与えないことなどを踏まえて総合的に判断すべき。



全組合員の頑張りにへえるべく  
17春闘をも見据え精力的に交渉を行います!